

ブレーメンのおんがくたいーグリム童話ー

ハンス・フィッシャー 絵

せたていじ 訳



福音館書店 1964年 1300円

年をとって働けなくなり、えさをもらえなくなったろばが、音楽隊に入ろうとブレーメンを目指して出かけました。途中で、いぬ、ねこ、おんどりも仲間に加わり、日が暮れてたどりついたのはどろぼうの家でした。ろばの上にいぬ、ねこ、おんどりが次々と乗って一斉に音楽を奏でると、どろぼうたちは、ばけものがきたと思って逃げ出してしまいました。グリムの昔話です。白地に鮮やかな色の絵がとても美しい絵本です。

ふわふわくんとアルフレッド

ドロシー・マリノ 文・絵

石井桃子 訳



岩波書店 1977年 800円

くまのぬいぐるみのふわふわくんは、アルフレッドがあかんぼうの時から友達で、いつもいっしょでした。ところが、アルフレッドに新しいおもちゃの友達ができると、ふわふわくんは見向きもされなくなりました。そこで、ふわふわくんは、高い木に登ってしまいます。絵は灰色と朱色で描かれて親しみやすく、子どもの気持ちにびたりと添った絵本です。アルフレッドがふわふわくんと友達にもどる結末も安心できます。

ペレのあたらしいふく

エルサ・ベスコフ 作・絵

おのでらゆりこ 訳



福音館書店 1976年 1100円

ペレは、こひつじを1匹もっていました。上着が小さくなったので、ペレはこひつじの毛を刈り取って、おばあちゃんに毛をすいてもらうかわりに畑の草取りをしました。こうしてペレは、糸を紡ぎ、染め、織って、服を仕立ててもらったかわりに言いつけられた仕事をきちんとやりました。自分の労働とひきかえに新しい服を手に入れたペレの喜びが伝わってきます。北欧の農村の素朴な暮らしが丹念に描かれています。